

1. 自己設定目標の修得について

(1) 研修参加に際して自ら設定した目標

- ① 構造計算書について理解を深める。
- ② 他の自治体の建築確認審査業務についての知識を得る。

(2) 研修で修得した内容

- ① 8名ずつの班に分かれ、構造計算書と図面の不整合を見つける課題研究を行いました。不整合部分を見落とすと、どのような結果になるかを予想するというものです。この課題研究を通じて構造計算書に関する内容を深く学ぶことができました。通常業務では構造計算書に触れることが少ないため、ここまで真剣に構造計算書を見たことはありませんでした。また、じっくりと時間をかけて構造計算書の構成状況を見ることができ、とても貴重な機会でした。さらに、班の仲間と多くの目で見ることにより、自分だけでは気付けなかった内容まで気付くことができ、様々な考え方を学ぶことができました。
- ② 多くの仲間と建築行政について情報交換をしました。普段の何気ない気付きから、あまり出ないような珍事例、最近増えてきているクレーム等、情報を交換することにより他の自治体の建築確認審査についての考え方を学ぶことができました。

2. 研修設定目標の修得について

(1) 構造審査を取り巻く最新の動向の理解

- ・東日本大震災や、地震以外の災害などを踏まえた建築基準法の一部改正等、構造審査の変化への対応を図る。

(2) (1) を踏まえた構造審査の重点事項

- ・津波に対する構造耐力上安全な建築物の設計方法等に係る技術的助言
- ・建築物における天井脱落対策
- ・エスカレーター等の昇降機に係る地震安全対策
- ・長周期地震動に対する建築物の安全対策
- ・建築物の雪害対策
- ・建築物の土砂災害対策

(3) 重点事項を実施するためのポイント・手法等研修で修得したもの

昨年甲府市は大雪災害により甚大な被害を受けました。倒壊家屋も多くあったことから、早急に雪害対策を講じるべきだと感じました。特に、大雪に降雨が重なる場合は、気象庁と連携して家屋が倒壊する危険性の注意喚起を行うことも重要です。また、積雪加重の考え方は雪国を中心に設定されたものであり、降雪後の大雨には対応しきれないため、少しでも早く法の整備をお願いしたいと感じました。更に、観測精度の向上、今後の気候変動の動向も踏まえて、全国的な積雪荷重の算定方法やその数値も再検討が必要であると感じました。

3. 今後の業務への反映について

(1) 自己の業務への反映

最後に、研修の助成をしていただいた山梨県技術センターの関係者の皆様、講義を開催していただいた各関係機関の皆様、本研修に送り出していただいた職場の皆様に対し感謝の気持ちを忘れず、得た知識や情報をこれからの業務に活かしていきたいと思っております。